

## 第2学年音楽科学習指導案

日 時 平成30年11月6日(火)  
学 級 2年4組  
男子18名 女子15名 計33名  
授業者 遠藤 悦子

### 1 題材名

篠笛の美しい音色を感じて表現しよう

### 2 題材でつきたい力

本題材は学習指導要領の第2学年及び第3学年内容 A 表現(2)器楽「ア 曲想を味わい、曲にふさわしい表現を工夫して演奏すること」「イ 楽器の特徴を理解し、基礎的な奏法を生かして演奏すること」共通事項「(1)ア 音色、リズム(間)、旋律」について指導を行うものとする。

これを受けて、本題材では生徒につけさせたい力を以下のように考えた。

- グループ活動を通して主体的・協働的に課題解決に向かう力
- 日本の伝統音楽の良さを味わい、ふさわしい奏法で演奏する力

### 3 題材の指導にあたって

#### (1) 生徒観

本学級は心を開いて他と交流することを苦手とする生徒が多い。その改善に向けて、可能な限り少人数でのグループ活動を設定し協働的な態度を引き出そうと試みている最中である。生徒は1年時から篠笛の学習を始め、平易な曲を用いて姿勢や唇の当て方、息の出し方、指穴の押さえ方、「指打ち」、呂と甲の音の吹き分けなどの基礎的な奏法の習得に挑戦している。篠笛らしい美しい音を出せる生徒は少ないが、「篠笛らしさ」の概念はほとんどの生徒がとらえている。

#### (2) 教材観

本題材で扱う平易なわらべ歌(遊び歌)は、篠笛で演奏するとき日本音楽の特徴である「旋律の装飾(揺れ、こぶし)」が聞き取りやすい。また、日本の伝統音楽の旋律特徴の一つである特定の2音、ないし3音のみで構成されており、どの曲も既習の奏法で演奏することが可能である。既習事項を再確認しながら「篠笛らしさ」を主体的かつ協働的に追求する活動においては、難易度的にもふさわしく本時のねらいの達成に適した教材である。

#### (3) 指導観

篠笛の扱いに当たっては、3年間の学習を通して音楽科の目標である「我が国や郷土の伝統音のよさを味わい、愛着をもつこと」につなげていきたいと考える。多くの生徒にとっては初めて手にする和楽器でもあり抵抗感を示す生徒もいるが、3年間を通して様々な活動を取り入れながら和楽器ならではの音色や響き、奏法の特徴、表現力の豊かさや繊細さなどを実感させていきたい。また、1年時は基礎的な技能指導を主としたため教師主導の学習スタイルが多かったが、2年時は協働的な学習スタイルを仕組み、より深い学びへとつなげていきたいと考える。そのため本題では「篠笛らしさ」の感受をもとに全体での共通理解をはかった後に、目指す音にふさわしい表現を小グループ単位で探り、演奏できるようにさせたい。その際、現時点での「篠笛らしさ」のおさえは①旋律の揺れ(こぶし的な破裂音)②音を一音ずつ区切らないこと、の2点にとどめる。グループでの活動において既習事項を駆使し、その奏法は「指打ち」と「ノンタンギング」によるものであることを創意工夫の中から探り出させたい。教師の指導は極力控え、生徒の思いや意図に沿ったアドバイスを適宜与え、主体的・協働的な活動を通して目指す姿に到達させたいと考える。

#### 4 題材の指導目標

- (1) 旋律の特徴や篠笛の奏法に関心を持ち、それらをもとに各教材曲にふさわしい奏法で演奏する学習に協働的に取り組む。
- (2) 篠笛らしい音色や奏法が生み出す特質や雰囲気を感じながら、各教材曲をどのように演奏するかについて思いや意図をもつ。
- (3) 曲にふさわしい音楽表現をするために必要な「指打ち」「ノンタンギング」「ブレスコントロール」などの技能を身につける。

#### 5 題材の評価規準

ア 音楽への関心・意欲・態度	イ 音楽表現の創意工夫	ウ 音楽表現の技能
①旋律の特徴や篠笛の音色、奏法に関心をもっている。 ②教材曲にふさわしい奏法で演奏する学習に協働的に取り組もうとしている。	①篠笛らしい音色や奏法が生み出す特質や雰囲気を感じている。 ②知覚・感受しながら篠笛で演奏する際に、教材曲にふさわしい表現を工夫し、どのように演奏するかについて思いや意図をもっている。	・曲にふさわしい音楽表現をするために必要な「指打ち」「ノンタンギング」「ブレスコントロール」などの技能を身につけて演奏している。

#### 6 題材の指導計画（5時間扱い）

時間	学習活動	評価規準
第1時	・模範演奏を聴取し、日本の伝統音楽の特徴を再確認する。 ・1年時の既習曲で奏法の再確認をする。	関①創①
第2~3時 本時2時	・平易なわらべ歌（あそび歌）を聴き、ポイントとなる特徴をとらえる。 ・小グループ単位で曲にふさわしい表現を創意工夫し、演奏（発表）する。 ・他のグループの演奏から得た情報を共有し、自分達の取り組みに生かす。	創② 関② 技
第4~5時	・「明の鐘」（冒頭）を聴き、ポイントとなる特徴をとらえる。 ・小グループ単位で曲にふさわしい表現を創意工夫し、演奏（発表）する。 ・他のグループの演奏から得た情報を共有し、自分達の取り組みに生かす。	創② 関② 技

## 7 本時の指導（2 / 5）

### （1）本時の目標

- 教材曲にふさわしい表現を工夫し、どのように演奏するかについて思いや意図をもって演奏する。
- 教材曲にふさわしい奏法で演奏する学習に協働的に取り組む。

### （2）研究主題とのかかわり

日本の伝統音楽の継承方法は西洋のそれとは異なり「口伝」を基本としている。楽譜を仲立ちに継承されてきたものではなく人から人へ口伝えて伝承されてきた音楽であることもふまえ、本題材でもその手法を取り入れる。この口伝えによる伝承方法は、対話による学び合いを核とする本校の研究主題とも合致する学習スタイルであり、ねらいを精査しつつ指導に当たりたい。また、本題材に限らず小グループによる協働的な問題解決学習を適宜仕組み、更なる教育効果を期待したいと考えている。

### （3）本時の評価規準

評価の観点	評価規準	評価の方法
音楽表現の創意工夫 (創)	篠笛らしい音色や奏法が生み出す特質や雰囲気を感じながら教材曲にふさわしい表現を工夫し、どのように演奏するかについて思いや意図をもっている。	観察 ワークシート

(4) 本時の展開

	学習活動	○指導上の留意点	評価
導入 10分	1 比較聴取  2 学習課題の確認	○教材曲を篠笛の奏法に準じた演奏と西洋楽器の奏法に準じた演奏で比較聴取する。 ・「指打ち」「ノンタンギング」の2点を確認。  ○課題曲、学習形態、条件の確認をする。 ・グループ全員が演奏できるように教え合うこと。	
展開 30分	「篠笛らしさ」が伝わる演奏をグループで工夫して演奏しよう		
	3 小グループでの課題追求①	○提供する情報は以下の2点のみ。 ・五ないし六の音から始まる曲であること。 ・息は「2息」で（2フレーズで）。	
	4 中間発表、意見交流	○何グループかに発表させ、その工夫点について全体で意見交流する。 ・篠笛らしい演奏だったか。 ・ふさわしい奏法だったか。 ・自分達の課題曲に共通する奏法はないか。 ○楽譜を提示し、奏法のアドバイスをを行う。	創
	5 小グループでの課題追求②	○中間発表を受けて参考になった点や楽譜等を活用し、より深く課題の追求をする。 ○ねらいを達成したグループは他のグループの課題追求へのアドバイスをを行う。	
	6 まとめ	○ 個人でワークシートにまとめる。 ・グループでの学び合い、全体での意見交流を個人の学びとしてとらえているかを把握する。	創
終末 10分	7 学習活動の振り返り	○本時の学習の振り返りを記入する。 ・今日学んだこと、課題点を確認する。 ○ 次時の予告	